

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991100098		
法人名	社会福祉法人 芳寿会		
事業所名	グループホーム 真心の里		
所在地	山梨県都留市中央1-1-16番地		
自己評価作成日	平成29年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年10月20日	金曜日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2年前の6月にオープンした都留市の谷村の中央に位置しているグループホームの施設です。近くには商店街、小学校、市役所などがあり地域に溶け込んだ施設をめざしています。小学校の運動会、地域のお祭りなどにも参加しています。利用者一人ひとりが自分らしい生活が送れるように支援しています。自分で出来る事は自分で行なってもらい、自立支援のケアを実践しています。気軽に馴染みの商店街や小学校に買い物や散歩に出かけて地域の皆様と交流を深めています。併設している特別養護老人ホームの看護師、施設往診医、及び関係医療機関と連携し医療的サポートをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市の中心にある商店街の中にあり、小学校、市役所、公共の施設等が近くにある。地域密着型の施設としての運営を心がけており、小学校の運動会や地域の祭りやイベントに積極的に参加している。事業所は施設の1階に有り、2~3階には地域密着型小規模特別養護老人ホームが併設されている。入居者は地域の方が多く入居されており、地域との交流が日常的に行われ、馴染みの関係が構築されている。2階にある交流室ではいきいきサロンやボランティアの催し物が開催され、入居者・地域の方の楽しみの場となっている。入居者の医療サポート体制も整っており、細やかなさりげない関わりが日常生活で行われ、ゆったり落ち着いて過ごせる環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本法人の基本理念を玄関など見やすい場所に掲示して誰でも見やすい場所にはしています。 職員同士のミーティングの際に基本理念について周知徹底してあります。	法人の理念を家族や来訪者に分かりやすいグループホームの正面玄関に提示し、周知している。日々のケアの実践の中でリーダーより理念に沿った具体的なケアについての指示が有る。また月1回のミーティングで基本理念の共有が図れるよう努め実践に繋げている。	法人の理念を柱に、職員間で話し合いグループホーム独自の理念(目標)を作成し、日々の実践のケアの中での意識付けがなされることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のお祭り(お八朔祭り、ジョイ都留祭り)などに参加しています。近くの小学校の運動会に参加しています。 ・近くにある商店街に散歩などをし買い物して交流を深めています。	自治会に入会している。近くに商店街が有り日常的に散歩や買い物に出掛け、気軽に挨拶を交わしたり、小学校の運動会に参加している。施設内の2階に有る交流室を地域に開放し、子供クラブや地域住民との交流の場として貢献出来るよう、市・地域と連携を深める努力を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進委員会を中心に認知症についての理解の支援をしています。地域の回覧板などを利用し、介護相談などを受け付けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会では、現在の運営状況、活動内容などを報告し、委員の意見や要望などを取り組みサービス向上に生かしている。 ・施設行事、地域の行事なども情報共有し、地域との連携が図れるようにしています。	2か月に1回運営推進会議を開催。事業所から入居者の様子や行事の報告や民生委員・自治会から地域の行事の話等が有る。その後、質疑応答で双方向的な会議になり、会議では「地域の人から見ると事業所の敷居が高い」と言う意見を聞き、回覧板を利用して介護相談会を開催。何件かの相談があった。今後も要望に応じ継続的に出来るよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市の担当者とはつねに情報交換連携を密に取り、報告や指導を受けています。	積極的に事業所から出向き、市の担当者と連携してグループホームから特別養護老人ホームに移行する利用者、病院からグループホームに入居する利用者等の相談を行っている。今後も必要な情報を共有しより良い協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束については、禁止となる事項を正しく理解し、身体拘束につながらないように取り組んでいます。また、日々のケアにも職員同士が身体拘束につながらないように意見交換しています。	管理者が常に気を配り、対応について周知徹底している。特にスピーチロックはリーダーがその都度注意し、身体拘束・虐待防止に努めている。利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、職員間で身体拘束をしないケアに取り組むと同時に、近隣の人にも見守りや声掛けの連絡をもらえる関係が築けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待については管理者、職員同士が話し合いなどを通じ、虐待に関する知識、認識を深め虐待防止に取り組んでいます。 ・職員間でも虐待について気づいたことを話し合い意見交換しています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については職員が県、市町村が開催する研修に参加したり、市町村の担当者と必要時に報告、連絡、相談し情報共有しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時の際には、自宅訪問または直接施設に来てもらい、契約の締結、解約の説明、重要事項の説明をし、同意を得ています。 ・本人、家族に不安、疑問がある場合には納得いくまで話し合いをし、理解を得ています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の来所時にサービス内容、日ごろの様子などを話をしていきます。その際には、家族、本人の意見やご指摘をくみ上げるようにしています。 ・利用者、家族の方のご意見、不満が聞けるように入口に意見箱を設置しています。	ご家族にアンケートを実施し、面会時や月1回の利用料の支払日にコミュニケーションを図り、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに取り組んでいる。家族から出された意見・意向・要望はミーティングで話し合い施設運営に反映させている。玄関に意見投書箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年に2回全スタッフに対してアンケートを実施し、管理者との面接を行っています。管理者との面談は個々で必要において行っています。 ・毎月法人全体で代表者会議を開催し、職員の意見を反映できるようにしています。	各自のスキルアップ目標を設定した5段階式アンケートをもとに、年2回管理者との面接が行われている。法人の施設長が毎月訪れ、管理者との話し合いが行われ、ミーティングで聞き取った職員の意見・要望が運営に反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回施設長面接の実施で、努力や実績の評価や業務への要望の聞き取り等を行っています。また、法人全体で勉強会や行事などを開催し、向上心を失わないように明るく楽しく働けるように努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修の参加および内部研修(接客マナー、感染研修など)に参加しています。 ・資格試験には資格取得のため研修費を負担しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修時には他施設職員、ケアマネージャーと積極的に交流し、意見交換をしています。 ・他施設の訪問を受けたり、訪問して意見交換などができるようにしています。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ケアマネージャーがご自宅、他施設に訪問し、現在本人が困っている事、不安に思っている事を伺っています。入居前には本人に直接施設に来てもらって、本人の不安に思っている事を伺っています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に管理者がご家族の困っている事、不安に思う事などを施設に来てもらい、直接伺っています。 ・家族との連絡を密にし、ご家族の不安、要望などを傾聴、理解しながら安心していただけるように配慮しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・見学、相談の際には介護サービス利用に向けて本人、ご家族の不安や相談を受けています。本人、ご家族の要望に沿った介護サービスの提案をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を楽しんでいる	・利用者、職員が「共に生活する」と言う考え方で、介護するのではなく出来ないところだけ職員が手伝いながらケアさせてもらっています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者を中心にご家族、職員が密に連携を取りお互いの思いを共有しながら支えています。 ・ご家族の訪問時は、利用者の様子などもお伝えしています。 ・家族との絆が深まるよう積極的に外出、外泊を支援しています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近所の馴染みの商店街に買い物に出かけたり、馴染みの理容店、八百屋を利用しています。 ・馴染みの人との面会も積極的に支援しています。	入居者は地元の方が多く昔から利用している理美容店が来てくれたり、馴染みの八百屋に買い物に行ったり、普段から馴染みの関係が出来ている。児童ボランティア、手話ボランティア、和太鼓等のイベントが開催され、地域と多くの継続的な交流が図られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の尊厳、生活暦、個々の生活などを考慮しながら利用者同士が良好な関係が作れるよう支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された利用者は、同法人の特養入所が多いので常時、情報共有、連絡、相談を行なっています。 ・退所後のご家族の相談も行なっています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いや生活暦を把握しながら職員同士話し合いを持ちながら支援しています。把握が困難な場合には計画作成者、職員が話し合い本人に合ったケアを検討しています。	本人の事をよりよく知るため、家族からの情報や日々のケアの中での会話から把握するように努めている。また、入居前のケアマネジャーに以前の様子を伺うなど、意思疎通の困難な方に対しても1つ1つアプローチを丁寧に行いニーズを導き出すように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族の情報、本人の何気ない会話からその人がどのような生活をしてきたのかを把握しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の日々の過ごし方、心身の状態等を観察し、その都度記録しその都度記録しています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の職員同士のミーティング、担当者会議等で意見、アイデアを出してもらい介護計画に反映しています。	入居する以前の情報と併せて本人や家族から、日々の関わりの中での思いや意向を聞き取り、1か月を目途に一度暫定プランを作成し、管理者・職員間で情報を共有した後、モニタリングやカンファレンスを行い本プランを作成している。見直しは基本6ヶ月とし、急変時は随時現状に即した見直しが行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の様子や特記事項などは介護記録に記入し、その情報を基に職員同士が情報共有、意見交換し介護計画を見直しています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、ご家族の希望を取り入れ、その状況に応じたサービスの提案をしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くの馴染みのある商店街を歩いて買い物に出かけたり、ファミレスなどに食事に出かけたりしています。 ・地域のボランティアに来てもらい楽しんでいます。 (和太鼓、子供クラブなど)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人と家族の意向に沿うように、かかりつけ医、専門医と連携をとりながら支援しています。 ・家族、本人の意向により現状は施設への往診医(内科医師)が主治医となり支援しています。	基本的には法人の内科医と本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。付き添いは家族対応でケアマネジャーが付き添うことも有る。薬は薬局から届けてくれ、歯科医の往診も利用できる。法人内の看護師が排便コントロールや急変時のアドバイスを行うなど、支援体制があり、記録や申し送りで情報の共有が図られている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々、併設の特養看護師と連携をとりながら適切な看護、医療が受けられるように支援しています。 ・往診医と情報を共有して医療的な支援をしています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時は各医療機関のSWや看護師と情報共有し、連携しています。入院中もケアマネが病院に訪問し、本人、家族の要望、相談にのっています。退院時には退所前カンファなどを行なっています。 ・近隣の各医療機関のSWとの関係作りを行なっています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合、終末期のあり方について入所時に事業所としての方針を説明しています。また、家族の考え方についてもその都度確認しています。 ・本人、家族、往診医、事業所で早い段階から終末期の方針を情報共有し病院移転や特養の転居などを提案し、支援しています。	看取り体制は整っている。ご家族には入居時に終末期についての説明が有る。食事が減った等の変化が有った時点で家族・、医師・看護師・職員で話し合いが行われ、安心した最後を迎えられるよう、細やかな支援に取り組んでいるが、最終的に入院となる利用者もいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・利用者の急変や事故発生に備えて、適切な応急処置や救急対応が出来るように話し合い対応しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災を想定した訓練を併設の特養と年2回避難訓練を行っています。夜間想定した避難訓練もGHの職員で実施しています。	法人全体で昼夜の火災を想定した訓練を年2回行っている。非常ベルで2・3階が繋がっていて協力体制が整っている。地震・災害に備え倉庫の中に3日分の食料品等の備品が準備され定期的に入れ替えが行われている。隣接した小学校が避難所となっているが、当事業所も福祉避難所となれるよう検討中。地域の消防団の協力で地域住民を巻き込んだ避難訓練を3か月に1回行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人ひとりの人格を尊重して利用者のプライドやプライバシーを損ねないような言葉使いをしています。 ・ケアファイルなどは外部の人に目が触れないようにしています。	人前であからさまな介護をしない。目立たずさりげない言葉かけ、態度に配慮している。排泄に失敗した場合は、自室にて対応している。個人ファイルは事務室で鍵付きのロッカーで管理し、責任ある管理を徹底している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・様々な場面で、本人の意思決定できるような言葉かけを行なっています。本人の意思を尊重してケアを行なっています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者本位の日々の暮らしが出来るようにケアしています。利用者がやりたい事、出来る事を職員同士が意見交換しながら日々の暮らしを送っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人がおしゃれを楽しめるように支援しています。衣服等は家族に協力してもらい馴染みの衣服、おしゃれな衣服を用意していただいています。 ・2ヶ月に1度近隣の理容店に訪問してもらい、その方にあったスタイリングをしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ミニ菜園で収穫した野菜、家族、職員が持ってきてくれる野菜等季節応じた旬の食材を提供しています。 ・献立はその日に利用者が食べたいものを提供しています。 ・食事の後片付け、食事の準備などは、利用者が率先して手伝ってくれます。	その日のメニューを入居者と一緒に考え、菜園で収穫した野菜や近隣で頂いた野菜を工夫し、季節感が感じられる食事を提供している。1日の活動の1つと成るよう準備・片付け等は出来るだけ声を掛け参加していただけるよう支援している。また、元気な方と一緒に近隣の馴染みの店に散歩を兼ねて食材の買い物に出掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者一人ひとりに応じた食事量を提供しています。利用者の体調に応じて刻み食、粥食など食事形態を変えています。 ・記録を通じ一日の摂取量を把握しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後の口腔ケアの声かけを行なっています。歯磨き後には職員が歯磨きチェックを行なっています。 ・必要に応じて近隣の協力歯科医の往診を行なっています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・ほぼ自立の利用者が多い。失敗がある場合には、排泄パターンを把握して誘導を行なっています。	トイレは自室に設置されており、失敗してしまった方でも着替えの時は、さりげない声掛けで自室に誘導し、精神的負担を最小限にするよう対応を行っている。排尿・排便チェックは管理日報で行っており、尿意の無い利用者にも時間を見計らって、さりげなく声掛け誘導を行うことで、自立に向けての取り組みが行われている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・定期的に自然排便ができるように適度な運動、食事、水分摂取を行なっています。 ・ひどい便秘の場合には、看護師、主治医と相談しながら対応しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回と決めているが、本人の希望であれば入浴したときに入浴してもらっています。	毎日午後に入浴可能、その時々状況に応じ希望に添った対応を行っている。入浴を拒む利用者には時間や曜日・関わる職員を変えるなどの対応をしている。普通浴槽での入浴が困難な利用者は、2階の特別養護老人ホームの機械浴で対応している。事業所で備え付けのシャンプー・石鹸を使用している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム 真心の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		・一人ひとりの生活習慣にあわせて、本人のリズムに合わせて静養してもらっている。特に消灯時間は決めておらず本人のペースに合わせています。 ・夜間ゆっくり眠れるように日中は体操、散歩などをし活動を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		・確実に内服できるように職員全員が薬の目的などを理解して介助しています。 ・体調の変化が見られた場合には、主治医に連絡し指示をうけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		・季節行事やボランティアなどを活用して楽しみ事を支援しています。 ・日々の生活に張り合いがあるように利用者の出来る事探して、家事手伝いやウエス作りなどをこなしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している		・場所柄になげなく外に散歩できる環境なので、希望により近くの小学校、商店街等に散歩に行き地域の皆さんと挨拶したり、会話したりしています。		地元の有名な祭りである八朔祭りの行事に、家族と共に参加して祭りを楽しんでいる。歩行が困難な利用者でも車椅子で参加している。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、昔の自宅を見に行ったり、墓参りに行くなど、家族の協力を得ながら個別の外出支援を行っている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		・金銭は基本的に管理者が行っているが、本人の希望、家族の了承によりお金を所持して利用者もいる。 ・近所の商店街では職員と一緒に行き、個人で支払をすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		・手紙、電話は自由に出来るように支援しています。電話は家族の了承を得ていつでも出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		・季節感を感じられるような作品を利用者と一緒に作成し飾っています。利用者が快適と感じられるように音、温度、明るさなどに配慮しています。		廊下に職員と一緒に制作した季節感が有る創作品(造花)、フロアには利用者が書いた習字等が飾られており、ラジカセからは音楽が流れ、ゆったりとした時間の中で生活が営まれている。台所とフロアは対面式となっていて、食事の準備の音や香りが感じられる場となっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		・共有スペースでは気のあった利用者同士でゆったり過せるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		・自宅で生活しているように、本人の自宅あった家具、馴染みのものを持ってきてもらい自分らしい居室にしてもらっています。		電動ベッド、洗面台、トイレ、空調が備え付けであり、掛け布団は夏・冬共に事業所で準備されている。お風呂場の入り口には個人用ロッカーも有る。居室は冷蔵庫や懐かしい家具やテレビが置いてあり、家族写真や創作品等が飾られ、入居者それぞれが自分の家と感じられるような居心地の良い場と成っている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		・建物内部は全面バリアフリーになっています。トイレ、廊下、浴室には手すりがついています。		